

会議における発表概要

題名(テーマ)	霞ヶ浦における市民と行政の協働による 56 本の流入河川一斉水質調査の効果
共同発表者	沼澤 篤、大川幸一、真山淑枝、堀越 昭
登録した分科会 及び発表形式	Community Participation (10月31日セッション 6E 伝統的共同体と地域住民の参加) ポスター発表
発表内容(要旨)	
<p>日本の関東平野に位置する霞ヶ浦は代表的な海跡湖であるが、流域の高い人口密度のゆえに富栄養化しやすい。その湖水は約 40 年前に淡水化され、現在では農業用水、工業用水、飲料水源として、茨城県内のみならず首都圏の貴重な水資源である。</p> <p>近年の平均的な水質は、CODで約7~8mg/l、全リンで約0.1mg/l、全窒素で約1mg/lである。その水質の改善は、国や県だけでなく住民や水利用者の課題である。</p> <p>茨城県は過去5年間、毎年秋期に56本の流入河川、約280地点における水質を簡易法であるパケットテストで調査する事業を支援している。この事業では、学校生徒、教師、主婦、農民、県および市町村職員など300人を超える住民が参加している。それには、霞ヶ浦問題協議会、国土交通省、霞ヶ浦市民協会のスタッフも加わっている。</p> <p>さらに毎年6月、我々は、日本全国を網羅した水質調査活動にも参加している。この活動ではおよそ8500人の参加者が、約5000地点の河川や湖で水質を調査している。</p> <p>こうした活動は、水環境への市民意識の向上と水質改善を図る上で、市民と行政とのパートナーシップの好例になっている。こうした活動を通して、住民、特に若い世代が、水環境への関心を高め、河川、湖沼、貯水池の水質の現状を知り、水質汚濁のメカニズム、水生生物、生態系、そして生活排水の改善について学んでいる。</p>	

発表しようとする論文を添付すること。